

木の根でがんばる 小川さんを訪ねて

10.21へ!
工場討論のために(2)

一〇月一日開催された動労千葉第八回支部代表者会議は「ジェット燃料十一月増送阻止を企図する公団・国鉄当局に対し、10・21国際反戦闘争、国鉄三五万人体制合理化粉砕と結合し、拠点ストライキをもって闘う」ことを満場一致確認した。「新生動労千葉の正義性と真価を問う闘い」として、このストライキと現地大動員を一四〇〇名全員の固い団結力で何としても成功させていこう。

「いやなら出ていけ」と
いやがらせの「検問」

「機動隊の奴ら、本当にイヤッタラシイ事すんだヨ」ー最初に訪ねた木の根地区の小川一彰(くにあき)さん方で、奥さんの邦子さんは憤懣(ふんまん)やかたないといった調子で話してくれた。

空港のために「陸の孤島」みたいにされてしまった木の根地区では毎日近所の保育園児を共同で交替に車で送り迎えしているのだが、機動隊が「検問」と称して露骨ないやがらせをやっているのだそう。九月一九日の朝、いつものように子供五人を乗せて出た所でいきなりストップさせて、免許書見せろというので見せたらそのままとり上げられ、車のキーまでぬかれ、四〇分も留められたのだ。「私が運転して、あとは全部保育所の服を着てカバンしよってる子供たちばっかだヨ!」

何を調べるというんだヨネエ」「抗議したら「ウルセー!このアマ! ガタガタ言うんジャネー!」って、こうだよ!!子供たちはおびえ上っちゃうし」

二人の小学生の通学に際しても遅刻になる事を承知でこないやがらせの「検問」をやるといふ。「どうにもこうにも口惜しくて、腹の虫がおさまらないヨ! もし子供でも居なければサ、よっぽど胸ぐらでもつかんでやろうかと思った」

「木の根に人が住まなくなるまでやってやるって、言ってるやがるんだヨ!」

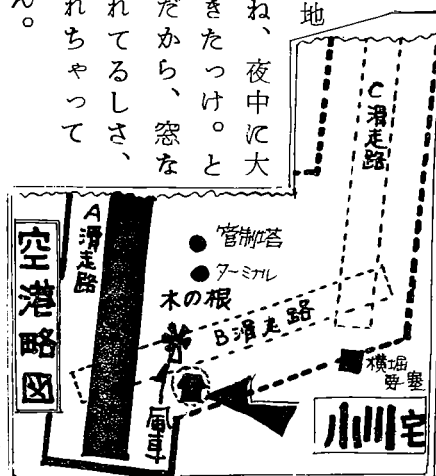
メチャクチャなエンジン・テスト!

ー深夜の二時、三時にー

権力・公団のやる事は本当に陰險な農民のなま殺し!!いぶり出し攻撃だ。騒音について聞いてみた。「真夜中にやるエンジン・テストってやつ、あれは本当にたまらないネ。音もすごいけど振動の方がもっとすごいんだよね。それをやられちゃうともうねむれなくなっちゃうんだよね。イライライライしてきて…。それも五分や一〇分位ならがまんもできるかもしれないけど、一時間とか一時間半位やられちゃうわけ」「夜中の一時半とか二時半、明け方も多いんだよな四時半ごろからとか…。その日によってちがうんだ。一番最

初やられた時はね、私、アッ地震だ!」つうてね、夜中に大声出してとび起きたわけ。とにかくすごいんだから、窓なんかガタガタゆれてるしさ、家中みんな起きられちゃって…。と邦子さん。

それで何らかの対策はとられたのですか、ときくと、「ないね。奴ら用地内の家には対策なんぞとらねえ。わざとやってるようなもんだ」というのだ。全くひどい話だ。



支援の姿見て、ガンバルよ! 動労千葉のジェット闘争に心からの期待

「ここに嫁に来てはじめて集会に行ったときに」と邦子さんは話す。「車イスに乗った人がロープで自分の体を車にしぼりつけてまでデモをやっていたんだよね。あの姿を見てサ、なんであんなしでまで、自分の土地や家がかかっているのでもないのに、それほどまでにデモしなくちゃなんないのかなとジーンときてサ。自分が何か恥かしいような気がしてサ、涙さえ流しちゃったヨナ」。それからというものは自分もずい分変わってきたという。ここまで来てあんな公団のやろうに負けてなるもんかと支援の人を見ては、いつもはげまされているという。

動労千葉、ジェット闘争の事、交流会のこと、増送計画や10・21の事が話になる。一いつか、一週間位ストでぶっとめた事あったつべヨー。(スト権ストのこと)あのぐれえやつちめえは、まず空港閉鎖だっぺ」と一彰さん。

陰險な敵のいぶり出しにめげずたくましくおおらかに闘い農業を守っておられる一彰さん邦子さんを夫婦に、三里塚の正しさと勝利を感じた。同時に動労千葉の責務の重大さをあらためて思い知ったのであった。

ジェット増送阻止のストをうちぬき、10・21に根こそぎの大結集をかちとっていかうではないか。